

まず、我々と佐藤守・岡本せい子の4人で一緒に登り始める。30mのナメの後は、平凡な沢が続く。8:10曲沢出合。曲沢は、沢が見えないほどヤブにおおわれており、水量も極めて少ない。曲沢より15分でウチノボリ沢出合に着く。林道はこの地点まで延びている。

10分間休憩の後、歩き始めて5分で岡本が転倒し、右手てのひらに裂傷をおう。沢の中とはいえ、林道も近いので、佐藤・岡本のパーティで下山し、我々は遡行を続けることにする。

左岸に枝沢を2本分けた後、小滝が現われてくる。50mのナメを通過し、さらに小滝を一つ越えるが、地図上に記された滝はなかなか出てこない。「幻の大滝か」と話しているうちに、遠くに白いものが見えてきた。「あった。あった」と心ときめかせながら、この沢の核心部である6段40mの滝に近づく。

下から見た感じでは直登できるように思えたので、1段目より慎重に登る。3段目まで登るが、4段目は取り付きにくく、また最上部の6段目は直瀑であり、その左右ともスラブ状の岩場でフェイスクライミングを強いられそうなので、直登をやめ、ここより右岸を措く。この滝の通過に25分費やす。このあとは大きな滝もなく、全て容易に登れる。

12:00二俣に着く。左右ともガレ状になっており、ここで水は濁れる。ゆっくり昼食をとって、左俣に入る。15分程登ってから左のヤブに入り、小田代小屋へ続く登山道に出ようとしたが、尾根上に踏跡は発見できない。そのままネマガリダケのヤブこぎを続け、13:50いったん曲沢源頭部に下降してから、沢筋を登って小田代に出る。

(記・

[タイム] 伊勢沢橋(7:35)→遡行終了(12:00)

赤岩沢中俣右沢

1985年8月18日

I.

赤岩沢にそって、地図には出ていない林道を進む。この林道は右俣出合の少し

手前で行き止まりとなる。伐採のためのワイヤーが空高く張られ、現在も伐採が進んでいるのがわかる。車を林道終点に置き、遡行開始。

すぐ右俣が分岐。橋がかかっている、人が入っているのがわかる。

20分程歩くと、伐採による崩壊のためか、沢が土砂と倒木で埋まり、伏流となる。滝だったと思われるところも土砂に埋まっている。10分程で水が戻り、左俣出合。左俣の奥には10mくらいの滝があるのを確認して中俣に入る。水量比は、左俣1:中俣4である。

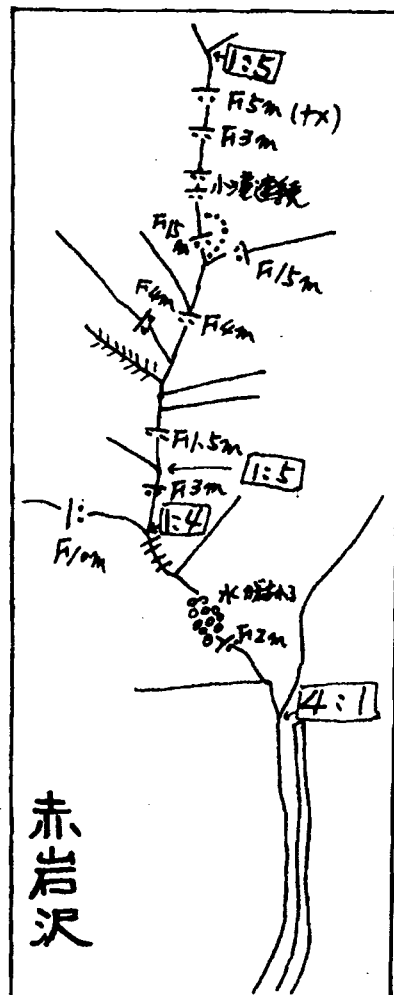
しばらく進むと、また二俣。右沢に入る。

いくつかの滝を越えてゆくと、再び二俣となり、両側から15mの滝が出てくる。左沢の滝にまず佐藤が取り付くが、上部が越せない。鈴木が左岸を高捲きザイルをおろして確保して登る。その先にもいくつかの滝が出てくるが、すべて直登できる。

水流も少なくなってきた、右岸からほとんど伏流となった割合大きな支沢が合流して所で、本日の行動予定時刻となり、遡行終了。同じ沢を下降して車デポ地に戻る。

枯木山の名前のおりか、伐採のせいか、倒木(流木)の多いのには驚いた。終了した二俣の地点も、倒木を乗り越えて歩く状態であった。(記)

[タイム] 林道終点(7:00)→左俣出合(7:40)→上部二俣(8:10)→遡行終了・下降開始(10:00, 10:30)→下降終了(12:05)



### 三王川流域の沢

三王川は、阿賀野川の源流帯を構成する支流の一つである。三王峠に突き上げ、概してなだらかな流れとなっている。この流域の2本の沢の遡行記録を紹介する。